

INFORMATION PROCESSOR AND STORAGE MEDIUM

Publication number: JP9305522

Publication date: 1997-11-28

Inventor: MORIZAKI HIROSHI

Applicant: BROTHER IND LTD

Classification:

- International: G06F13/10; G06F3/12; H04M11/00; H04N1/00;
H04N1/32; G06F13/10; G06F3/12; H04M11/00;
H04N1/00; H04N1/32; (IPC1-7): G06F13/10; G06F3/12;
H04M11/00; H04N1/00; H04N1/32

- European:

Application number: JP19960123278 19960517

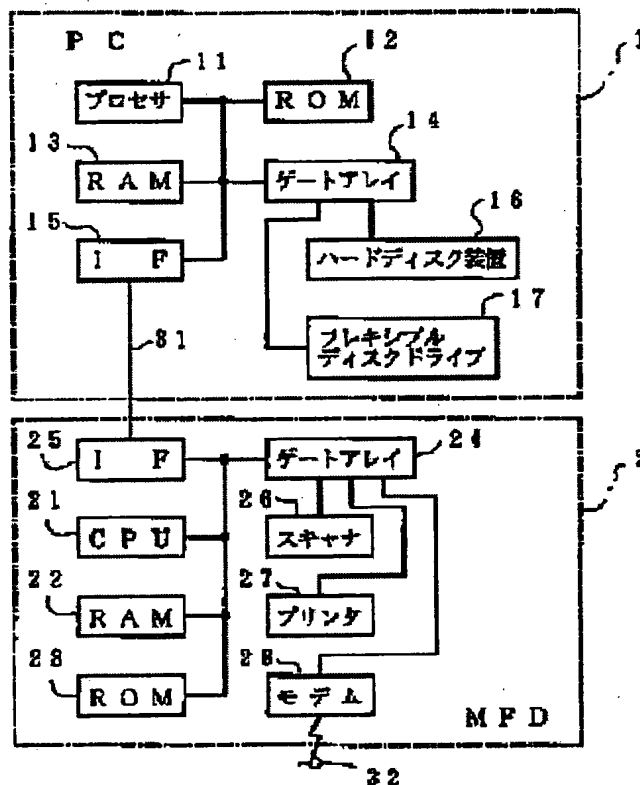
Priority number(s): JP19960123278 19960517

Report a data error here

Abstract of JP9305522

PROBLEM TO BE SOLVED: To surely execute new processing such as facsimile transmission or print by storing the contents of a processing instruction from a user into a processing storage means as non-processing after the execution of cancel processing.

SOLUTION: A hard disk device 16 consists of a data storage means for storing processing data and a processing storage means for storing the processing contents and processing conditions of stored data. Then, register processing is executed by operating a processor 11 based on the program of a log manager. Namely, first of all, a manager judges whether a status monitor is activated or not and when the status monitor is not activated, the status monitor is activated. Then, the log manager inquires the processing conditions of cancel to the status monitor and judges whether the cancel processing is finished or not. When the cancel processing is finished, the log manager registers the contents of the facsimile transmission instruction from the user into the log file.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-305522

(43) 公開日 平成9年(1997)11月28日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 13/10 3/12	3 3 0		G 0 6 F 13/10 3/12	3 3 0 A C
H 0 4 M 11/00	3 0 2		H 0 4 M 11/00	3 0 2
H 0 4 N 1/00 1/32	1 0 7		H 0 4 N 1/00 1/32	1 0 7 A Z
審査請求 未請求 請求項の数4 O L (全 8 頁)				

(21) 出願番号 特願平8-123278

(22) 出願日 平成8年(1996)5月17日

(71) 出願人 000005267

ブラザー工業株式会社

愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15番1号

(72) 発明者 森崎 浩

名古屋市瑞穂区苗代町15番1号 ブラザー

工業株式会社内

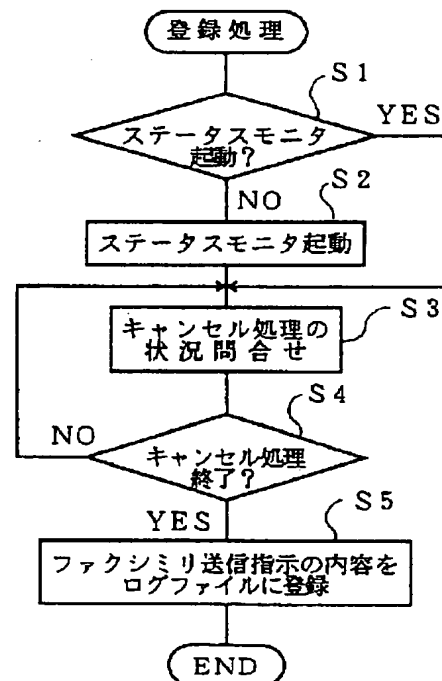
(74) 代理人 弁理士 吉田 稔 (外2名)

(54) 【発明の名称】 情報処理装置および記憶媒体

(57) 【要約】

【課題】 情報処理装置において、ステータスモニタの起動時にログファイル中に未処理のものが存在していても、確実に新たなファクシミリ送信やプリントなどの処理を行えるようにする。

【解決手段】 処理記憶手段に記憶されている処理内容および処理状況を参照して、データ記憶手段に記憶されている未処理のデータを適切な時期に処理するデータ処理手段と、データ処理手段の動作を強制的に終了させる強制終了手段と、データ処理手段の起動時に、処理記憶手段に記憶されている処理状況を検索して、処理状況が未処理であるものが存在すれば、それをキャンセルするキャンセル手段と、使用者による処理指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段によるキャンセル処理が実行された後に (S4: YES)、使用者による処理指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させる (S5) 登録手段とを備えた。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 処理すべきデータを記憶するデータ記憶手段と、

前記データ記憶手段に記憶されているデータの処理内容および処理状況を記憶する処理記憶手段と、

前記処理記憶手段に記憶されている処理内容および処理状況を参照して、前記データ記憶手段に記憶されている未処理のデータを適切な時期に処理するデータ処理手段と、

前記データ処理手段の動作を強制的に終了させる強制終了手段と、

前記データ処理手段の起動時に、前記処理記憶手段に記憶されている処理状況を検索して、処理状況が未処理であるものが存在すれば、それをキャンセルするキャンセル手段と、

使用者による処理指示に基づいて前記データ処理手段が起動したときに、前記キャンセル手段によるキャンセル処理が実行された後に、前記使用者による処理指示の内容を前記処理記憶手段に未処理として記憶させる登録手段とを備えたことを特徴とする情報処理装置。

【請求項 2】 前記処理状況は、ファクシミリ送信の未送信と保留とを含み、

前記キャンセル手段は、前記データ処理手段の起動時に、処理状況が未送信であるものが存在すれば、その処理状況を保留に変更し、

前記登録手段は、使用者によるファクシミリ送信指示に基づいて前記データ処理手段が起動したときに、前記キャンセル手段による処理状況の変更後に、前記使用者によるファクシミリ送信指示の内容を前記処理記憶手段に未送信として記憶させる請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 3】 前記処理状況は、プリントの実行済と未プリントとを含み、

前記キャンセル手段は、前記データ処理手段の起動時に、処理状況が未プリントであるものが存在すれば、それに関する前記処理記憶手段および前記データ記憶手段の記憶内容を消去し、

前記登録手段は、使用者によるプリント指示に基づいて前記データ処理手段が起動したときに、前記キャンセル手段による前記記憶内容の消去後に、前記使用者によるプリント指示の内容を前記処理記憶手段に未プリントとして記憶させる請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】 処理すべきデータを記憶するデータ記憶手段に記憶されているデータの処理内容および処理状況を記憶する処理記憶手段に記憶されている処理内容および処理状況を参照して、前記データ記憶手段に記憶されている未処理のデータを適切な時期に処理するデータ処理プログラムと、

前記データ処理プログラムの動作を強制的に終了させる強制終了プログラムと、

前記データ処理手段の起動時に、前記処理記憶手段に記憶されている処理状況を検索して、処理状況が未処理であるものが存在すれば、それをキャンセルするキャンセルプログラムと、

使用者による処理指示に基づいて前記データ処理手段が起動したときに、前記キャンセル手段によるキャンセル処理が実行された後に、前記使用者による処理指示の内容を前記処理記憶手段に未処理として記憶させる登録プログラムを含むプログラムを格納していることを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、パーソナルコンピュータなどの情報処理装置、およびその情報処理装置を動作させるためのプログラムを格納した記憶媒体に関するものである。

【0002】

【従来の技術】近年、パーソナルコンピュータにファクシミリモデムを内蔵したりファクシミリ装置を接続したりして、パーソナルコンピュータによりファクシミリ通信を行うことが普及しつつある。

【0003】このような場合、テキストデータをビットマップデータに変換するなどのデータ変換を行う FAX ドライバと呼ばれるソフトウェア、通信履歴を管理および表示するログマネージャと呼ばれるソフトウェア、およびパーソナルコンピュータとファクシミリ装置あるいはモデムとの間のデータの送受を管理するステータスマニタと呼ばれるソフトウェアなどが用いられ、ファクシミリ送信の正常終了、異常終了、未送信などの処理状況は、ログマネージャにより管理されるログファイルに記録される。そして、このログファイルは実際にはパーソナルコンピュータに内蔵されたハードディスクに記憶されている。

【0004】したがって、未送信の状態でステータスマニタを終了させた場合、その後に使用者がステータスマニタを起動させたときに、ファクシミリ送信が自動的に開始される。

【0005】たとえば、ある使用者がタイマ送信をセットしておいたにも拘らず、他の使用者がステータスマニタを終了させてパーソナルコンピュータの電源をオフにしてしまい、送信時刻に送信できなかった場合を想定すると、後に使用者が別のファクシミリデータを送信しようとしてパーソナルコンピュータの電源をオンし、ワープロソフトやステータスマニタを起動させたときに、送信時刻の経過した未送信のファクシミリデータが存在していることがログファイルに記録されているので、ステータスマニタがファクシミリ送信を自動的に開始してしまい、使用者の意に反したファクシミリ送信が実行されてしまう。

【0006】また、プリントの処理状況をログファイル

に記録して管理する場合にも、同様の問題が生じる。

【0007】そこで、ステータスマニタの起動時に、ログファイルに処理状況が未送信のものが含まれていれば、それを保留に変更し、また、未プリントのものが含まれていれば、それを削除することが考えられる。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、ステータスマニタの起動時に上記のような処理を実行すると、使用者が新たなファクシミリ送信あるいはプリントを行うためにステータスマニタを起動したときに、新たなファクシミリ送信あるいはプリントを行うためのログファイルの内容が変更あるいは削除され、新たなファクシミリ送信あるいはプリントが実行されない恐れが生じるという問題があった。

【0009】たとえば、使用者がワードプロセッサのアプリケーションソフトウェアを起動させて文書を作成し、それをファクシミリ送信するためにFAXドライバを指定すると、そのFAXドライバが起動し、そのFAXドライバによりステータスマニタが起動させられる。そして、ステータスマニタは、ファクシミリ送信のための情報をログファイルに未送信として登録し、また、上記のようにログファイル中の未送信を保留に書き換える。このため、ログファイルに未送信として登録する処理がログファイル中の未送信を保留に書き換える処理よりも先に実行された場合、未送信として登録したものが即座に保留に書換えられてしまう結果となり、ファクシミリ送信されないことになってしまう。

【0010】また、プリントの場合も同様の状況であり、ログファイルへの登録内容が即座に削除されてしまう結果となる。

【0011】本発明は、上記の点に鑑みて提案されたものであって、ステータスマニタの起動時にログファイル中に未処理のものが存在していても、確実に新たなファクシミリ送信やプリントなどの処理を行える情報処理装置、およびそのためのプログラムを格納した記憶媒体を提供することを目的としている。

【0012】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため、請求項1に記載した発明の情報処理装置は、処理すべきデータを記憶するデータ記憶手段と、データ記憶手段に記憶されているデータの処理内容および処理状況を記憶する処理記憶手段と、処理記憶手段に記憶されている処理内容および処理状況を参照して、データ記憶手段に記憶されている未処理のデータを適切な時期に処理するデータ処理手段と、データ処理手段の動作を強制的に終了させる強制終了手段と、データ処理手段の起動時に、処理記憶手段に記憶されている処理状況を検索して、処理状況が未処理であるものが存在すれば、それをキャンセルするキャンセル手段と、使用者による処理指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャン

セル手段によるキャンセル処理が実行された後に、使用者による処理指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させる登録手段とを備えている。

【0013】この情報処理装置によれば、登録手段が、使用者による処理指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段によるキャンセル処理が実行された後に、使用者による処理指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させるので、新たに登録された処理がキャンセルされることがなく、ステータスマニタの起動時にログファイル中に未処理のものが存在していても、確実に新たなファクシミリ送信やプリントなどの処理を行える。

【0014】データ記憶手段および処理記憶手段は、たとえばハードディスクにより実現される。データ処理手段、キャンセル手段、および登録手段は、所定のプログラムにより動作するプロセッサにより実現される。キャンセルの具体的内容は、処理状況を保留に変更するか、その件に関するデータ記憶手段および処理記憶手段の内容を削除するかが考えられる。

【0015】また、請求項2に記載した発明の情報処理装置は、請求項1記載の情報処理装置であって、処理状況は、ファクシミリ送信の未送信と保留とを含み、キャンセル手段は、データ処理手段の起動時に、処理状況が未送信であるものが存在すれば、その処理状況を保留に変更し、登録手段は、使用者によるファクシミリ送信指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段による処理状況の変更後に、使用者によるファクシミリ送信指示の内容を処理記憶手段に未送信として記憶させるものである。

【0016】この情報処理装置によれば、登録手段が、使用者によるファクシミリ送信指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段による保留への書換え処理が実行された後に、使用者によるファクシミリ送信指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させるので、新たに未処理として登録されたファクシミリ送信が保留に書換えられることがなく、ステータスマニタの起動時にログファイル中に未送信のものが存在していても、確実に新たなファクシミリ送信を行える。

【0017】更に、請求項3に記載した発明の情報処理装置は、請求項1記載の情報処理装置であって、処理状況は、プリントの実行済と未プリントとを含み、キャンセル手段は、データ処理手段の起動時に、処理状況が未プリントであるものが存在すれば、それに関する処理記憶手段およびデータ記憶手段の記憶内容を消去し、登録手段は、使用者によるプリント指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段による記憶内容の消去後に、使用者によるプリント指示の内容を処理記憶手段に未プリントとして記憶させるものである。

【0018】この情報処理装置によれば、登録手段が、使用者によるプリント指示に基づいてデータ処理手段が

起動したときに、キャンセル手段による処理記憶手段およびデータ記憶手段の記憶内容の削除が実行された後に、使用者によるプリント指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させるので、新たに登録されたプリント指示の内容が削除されることがなく、ステータスマニタの起動時にログファイル中に未プリントのものが存在していても、確実に新たなプリントを行える。

【0019】また、請求項4に記載した発明の記憶媒体は、処理すべきデータを記憶するデータ記憶手段に記憶されているデータの処理内容および処理状況を記憶する処理記憶手段に記憶されている処理内容および処理状況を参照して、データ記憶手段に記憶されている未処理のデータを適切な時期に処理するデータ処理プログラムと、データ処理プログラムの動作を強制的に終了させる強制終了プログラムと、データ処理手段の起動時に、処理記憶手段に記憶されている処理状況を検索して、処理状況が未処理であるものが存在すれば、それをキャンセルするキャンセルプログラムと、使用者による処理指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段によるキャンセル処理が実行された後に、使用者による処理指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させる登録プログラムを含むプログラムを格納しているものである。

【0020】この記憶媒体によれば、その内容をパーソナルコンピュータなどにインストールすることにより、請求項1記載の情報処理装置を実現できる。

【0021】記憶媒体としては、フレキシブルディスクが考えられるが、これに限るものではなく、たとえばCD-ROMなどであってもよい。

【0022】

【発明の実施の形態】以下、本発明の好ましい実施の形態を、図面を参照しつつ具体的に説明する。

【0023】図1は、本発明に係る情報処理装置の一例としてのパーソナルコンピュータに周辺装置を接続した状態の回路ブロック図である。パーソナルコンピュータ1は、いわゆるマルチウインドウを用いたGUIを採用しており、複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動させておくことが可能である。多機能周辺装置

(以下「MFD」という)2は、ファクシミリ、プリンタ、イメージスキャナ、およびコピー機などの複数の機能を有している。なお、MFDはマルチ・ファンクション・デバイスの略称である。

【0024】パーソナルコンピュータ1は、プロセサ11、ROM12、RAM13、ゲートアレイ14、インターフェース15、ハードディスク装置16、およびフレキシブルディスクドライブ17などを備えている。プロセサ11、ROM12、RAM13、ゲートアレイ14、およびインターフェース15は、バス線により相互に接続されている。バス線は、データバス、アドレスバス、および制御信号線を含む。

【0025】プロセサ11は、ハードディスク装置16にインストールされているOSや各種のアプリケーションソフトウェアなどのプログラムに基づいて動作し、情報処理を行う。ROM12は、各種のデータなどを記憶している。RAM13は、各種のアプリケーションソフトウェアなどによって利用され、各種のデータなどを記憶する。ゲートアレイ14は、プロセサ11とハードディスク装置16およびフレキシブルディスクドライブ17との間のインターフェースとして機能する。インターフェース15は、たとえばRS-232Cなどの規格に基づいて、パーソナルコンピュータ1とMFD2との間のデータの送受信を制御する。ハードディスク装置16は、各種のアプリケーションソフトウェアのプログラムなどを記憶する。フレキシブルディスクドライブ17は、フレキシブルディスクの内容を読み出す。

【0026】MFD2は、CPU21、RAM22、ROM23、ゲートアレイ24、インターフェース25、スキャナ26、プリンタ27、およびモデム28などを備えている。CPU21、RAM22、ROM23、ゲートアレイ24、およびインターフェース25は、バス線により相互に接続されている。バス線は、データバス、アドレスバス、および制御信号線を含む。インターフェース25は、ケーブル31を介してパーソナルコンピュータ1のインターフェース15に接続されており、モデム28には、電話回線32が接続されている。

【0027】CPU21は、MFD2全体を制御する。RAM22は、各種のデータを記憶する。ROM23は、MFD2を制御するためのプログラムなどを記憶している。ゲートアレイ24は、CPU21とスキャナ26、プリンタ27、およびモデム28との間のインターフェースとして機能する。インターフェース25は、たとえばRS-232Cなどの規格に基づいて、パーソナルコンピュータ1とMFD2との間のデータの送受信を制御する。スキャナ26は、原稿の画像を読み取って画像信号に変換する。プリンタ27は、画像データに基づいて画像をプリントする。モデム28は、ファクシミリ通信の送受信に際して、送信データにより搬送波を変調し、また受信搬送波を復調して受信データを取り出す。

【0028】パーソナルコンピュータ1のハードディスク装置16には、MFD2のモデム28を用いてパーソナルコンピュータ1と他のファクシミリ装置などとの間でファクシミリ通信を行わせたり、プリンタ27を用いてパーソナルコンピュータ1で作成した文書や画像を印刷させたり、スキャナ26を用いて読み取らせた画像信号をパーソナルコンピュータ1に取り込んだりという、各種の機能を実現するためのMFD制御アプリケーションソフトウェアがインストールされている。このMFD制御アプリケーションソフトウェアは、フレキシブルディスクドライブ17にフレキシブルディスクを挿入して所定の操作を行うことにより、ハードディスク装置16

にインストールされる。このMFD制御アプリケーションソフトウェアは、テキストデータをビットマップデータに変換するなどのデータ変換を行うFAXドライバと呼ばれるソフトウェア、通信履歴を管理および表示するログマネージャと呼ばれるソフトウェア、およびパーソナルコンピュータ1とMFD2との間のデータの送受を管理するステータスマニタと呼ばれるソフトウェアなどにより構成されている。

【0029】すなわち、ハードディスク装置16は、処理すべきデータを記憶するデータ記憶手段と、データ記憶手段に記憶されているデータの処理内容および処理状況を記憶する処理記憶手段とを構成している。プロセッサ11は、ハードディスク装置16にインストールされたMFD制御アプリケーションソフトウェアに基づいて動作することにより、処理記憶手段に記憶されている処理内容および処理状況を参照して、データ記憶手段に記憶されている未処理のデータを適切な時期に処理するデータ処理手段と、データ処理手段の動作を強制的に終了させる強制終了手段と、データ処理手段の起動時に、処理記憶手段に記憶されている処理状況を検索して、処理状況が未処理であるものが存在すれば、それをキャンセルするキャンセル手段と、使用者による処理指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段によるキャンセル処理が実行された後に、使用者による処理指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させる登録手段とを構成している。また、MFD制御アプリケーションソフトウェアが格納されたフレキシブルディスクは、処理すべきデータを記憶するデータ記憶手段に記憶されているデータの処理内容および処理状況を記憶する処理記憶手段に記憶されている処理内容および処理状況を参照して、データ記憶手段に記憶されている未処理のデータを適切な時期に処理するデータ処理プログラムと、データ処理プログラムの動作を強制的に終了させる強制終了プログラムと、データ処理プログラムの動作終了時に、処理記憶手段に記憶されている処理状況を検索して、処理状況が未処理であるものが存在すれば、それをキャンセルするキャンセルプログラムと、使用者による処理指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段によるキャンセル処理が実行された後に、使用者による処理指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させる登録プログラムとを含むプログラムを格納している記憶媒体を構成している。

【0030】次に、このように構成されたパーソナルコンピュータ1およびMFD2の動作の概略について説明する。パーソナルコンピュータ1を用いてワードプロセッサのアプリケーションソフトウェアにより作成した文書をファクシミリ送信したい場合、そのワードプロセッサのアプリケーションソフトウェアを起動させ、印刷指示を行って、FAXドライバを指定する。これにより、ステータスマニタが起動されるとともに、FAXドライ

バが送信すべきテキストデータをビットマップデータに変換してハードディスク装置16に書き込む。そして、使用者が送信先の電話番号などの設定操作を行うと、その内容をステータスマニタがログマネージャに渡し、ログマネージャがログファイルに登録する。ログファイルはハードディスク装置16に記憶されている。登録された送信時期が即時送信である場合、ステータスマニタが、ログファイルを検索することによりそれを認識し、ハードディスク装置16からビットマップデータからなる送信データを読み出し、送信先の電話番号などの情報とともにケーブル31を介してMFD2に送る。これらのデータはインターフェース25およびゲートアレイ24を介してモデム28に伝送され、電話回線32に送出される。

【0031】パーソナルコンピュータ1を用いてワードプロセッサのアプリケーションソフトウェアにより作成した文書をMFD2のプリンタ27によりプリントした場合、そのワードプロセッサのアプリケーションソフトウェアを起動させ、印刷指示を行って、FAXドライバを指定する。これにより、ステータスマニタが起動されるとともに、FAXドライバがプリントすべきテキストデータをビットマップデータに変換してハードディスク装置16に書き込む。そして、使用者が印刷開始頁や終了頁などの設定操作を行うと、その内容をステータスマニタがログマネージャに渡し、ログマネージャがログファイルに登録する。ログファイルはハードディスク装置16に記憶されている。登録されると、ステータスマニタが、ログファイルを検索することによりそれを認識し、ハードディスク装置16からビットマップデータからなるプリントデータを読み出し、ケーブル31を介してMFD2に送る。これらのデータはインターフェース25およびゲートアレイ24を介してプリンタ27に伝送され、そのデータに応じた画像が記録用紙上にプリントされる。

【0032】ところで、タイマ送信を設定した場合、それがログファイルに登録されるので、ステータスマニタを起動させておけば、設定時刻に送信される。しかし、タイマ送信が設定されていることを知らない他の使用者がステータスマニタを終了させた場合、タイマ送信が行われず、ログファイルの内容はもちろん変更されない。したがって、何らの措置も行わなければ、タイマ送信の送信時刻経過後に使用者が別のファクシミリ送信を行おうとしてステータスマニタを起動させた場合、ステータスマニタがログファイルを検索して、タイマ送信時刻が経過していることを検知し、使用者の意に反したファクシミリ送信を自動的に行ってしまう。そこで、このようなことを防止するために、ステータスマニタが起動されたときに、ステータスマニタがログファイルを検索して、処理状況が未送信になっているものを保留に書き換える。

【0033】また、プリントがログファイルに登録された後、プリントの完了までにステータスマニタが終了させられた場合も状況は同じである。このため、このようなことを防止すべく、ステータスマニタが起動されたときに、ステータスマニタがログファイルを検索して、処理状況が未プリントになっているものを削除し、さらにハードディスク装置16に記憶されているプリントすべきデータも削除する。

【0034】ところが、上記のように使用者が新たなファクシミリ送信あるいはプリントを指示した場合、ステータスマニタが起動され、ログファイルに新たなファクシミリ送信あるいはプリントの指示内容が登録され、その処理状況は当然に未送信あるいは未プリントになるので、その登録がログファイルの内容を保留に書換えたり削除したりというキャンセル処理よりも先に実行されてしまった場合、新たに登録された指示内容も保留に書換えられたり削除されたりしてしまう。

【0035】そこで、ステータスマニタの起動時に、ログファイルの内容を未送信から保留に変更したり、未プリントを削除したりするキャンセル処理を実行した後、ログファイルに新たなファクシミリ送信あるいはプリントの指示内容を登録する。

【0036】このようなステータスマニタの起動時におけるログマネージャおよびステータスマニタの動作について、図2～図4に示すフローチャートを参照しながら説明する。

【0037】図2はステータスマニタの起動時におけるログマネージャによるファクシミリ送信指示のログファイルへの登録処理の手順を説明するフローチャートであって、この登録処理は、ログマネージャのプログラムに基づいてプロセッサ11が動作することにより実現される。

【0038】まずログマネージャが、ステータスマニタが起動しているか否かを判断する(S1)。ステータスマニタが起動していないならば(S1:NO)、ログマネージャが、ステータスマニタを起動させる(S2)。そしてログマネージャが、キャンセル処理の状況をステータスマニタに問い合わせ(S3)、ステータスマニタからの返答によりキャンセル処理が終了したか否かを判断する(S4)。キャンセル処理が終了すれば(S4:YES)、ログマネージャが、使用者によるファクシミリ送信指示の内容をログファイルに登録し(S5)、このルーチンを終了する。

【0039】S4において、キャンセル処理が終了していないならば(S4:NO)、S3に戻って再度キャンセル処理の状況をステータスマニタに問い合わせる。すなわち、キャンセル処理が終了するまで問い合わせを繰り返すのであるが、この問い合わせは所定のタイミングで行われる。

【0040】S1において、ステータスマニタが起動し

ていれば(S1:YES)、ステータスマニタを起動する必要がないのでS3に進む。

【0041】図3はステータスマニタの起動処理の手順を説明するフローチャートであって、この起動処理は、ステータスマニタのプログラムに基づいてプロセッサ11が動作することにより実現される。

【0042】まずステータスマニタが、フラグFを0にし(S11)、ハードディスク装置16に格納されているログファイルを検索して、処理状況が未送信になっているものが存在するか否かを判断する(S12)。処理状況が未送信になっているものが存在しなければ(S12:NO)、ステータスマニタが、ハードディスク装置16に格納されているログファイルを検索し、処理状況が未プリントになっているものが存在するか否かを判断する(S13)。処理状況が未プリントになっているものが存在しなければ(S13:NO)、ステータスマニタが、フラグFを1にして(S14)、このルーチンを終了する。

【0043】S12において、処理状況が未送信になっているものが存在すれば(S12:YES)、ステータスマニタが、その処理状況を保留に書換え(S15)、S12に戻る。すなわち、未送信のものが存在するかぎり、その処理状況を保留に書換えるという動作が繰り返される。

【0044】S13において、処理状況が未プリントになっているものが存在すれば(S13:YES)、ステータスマニタが、その件に関するログファイルの内容を削除し(S16)、さらに、その件に関するプリントデータもハードディスク装置16から削除して(S17)、S13に戻る。すなわち、未プリントのものが存在するかぎり、その件に関するログファイルの内容およびプリントデータを削除するという動作が繰り返される。

【0045】図4はログマネージャの問い合わせに対するステータスマニタの応答処理の手順を説明するフローチャートであって、この応答処理は、ステータスマニタのプログラムに基づいてプロセッサ11が動作することにより実現される。また、図3に示す起動処理の実行中においては、ログマネージャからの問い合わせがある度に、応答処理にルーチンが切替えられ、応答処理が終了すると起動処理に戻る。

【0046】ログマネージャからの問い合わせがあれば(図2のS3)、ステータスマニタが、フラグFが1であるか否かを判断する(S21)。フラグFが1であれば(S21:YES)、ステータスマニタが、キャンセル処理が終了した旨の返答をログマネージャに返して(S22)、このルーチンを終了する。

【0047】S21において、フラグFが1でなければ(S21:NO)、すなわち0であれば、ステータスマニタが、キャンセル処理が終了していない旨の返答をロ

グマネージャに返して（S23）、このルーチンを終了する。

【0048】このように、ステータスマニタによるキャンセル処理の終了を確認した後に（S4）、ログマネージャが、ファクシミリ送信指示の内容をログファイルに登録する（S5）。

【0049】なお、図2のフローチャートでは、ファクシミリ送信指示の内容をログファイルに登録する場合について説明したが、プリント指示の内容をログファイルに登録する場合も同様の処理手順である。

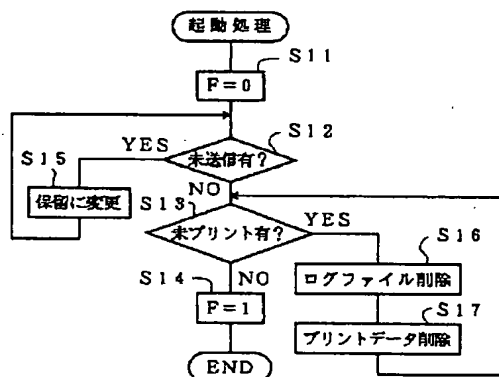
【0050】

【発明の効果】以上説明したように請求項1に記載した発明の情報処理装置によれば、登録手段が、使用者による処理指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段によるキャンセル処理が実行された後に、使用者による処理指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させるので、新たに登録された処理がキャンセルされることがなく、ステータスマニタの起動時にログファイル中に未処理のものが存在していても、確実に新たなファクシミリ送信やプリントなどの処理を行える。

【0051】また、請求項2に記載した発明の情報処理装置によれば、登録手段が、使用者によるファクシミリ送信指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセル手段による保留への書換え処理が実行された後に、使用者によるファクシミリ送信指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させるので、新たに未処理として登録されたファクシミリ送信が保留に書換えられることがなく、ステータスマニタの起動時にログファイル中に未送信のものが存在していても、確実に新たなファクシミリ送信を行える。

【0052】更に、請求項3に記載した発明の情報処理装置によれば、登録手段が、使用者によるプリント指示に基づいてデータ処理手段が起動したときに、キャンセ

【図3】



ル手段による処理記憶手段およびデータ記憶手段の記憶内容の削除が実行された後に、使用者によるプリント指示の内容を処理記憶手段に未処理として記憶させるので、新たに登録されたプリント指示の内容が削除されることがなく、ステータスマニタの起動時にログファイル中に未プリントのものが存在していても、確実に新たなプリントを行える。

【0053】また、請求項4に記載した発明の記憶媒体によれば、その内容をパーソナルコンピュータなどにインストールすることにより、請求項1記載の情報処理装置を実現できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る情報処理装置の一例としてのパーソナルコンピュータに周辺装置を接続した状態の回路ブロック図である。

【図2】ステータスマニタの起動時におけるログマネージャによるファクシミリ送信指示のログファイルへの登録処理の手順を説明するフローチャートである。

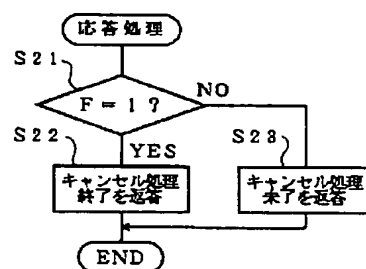
【図3】ステータスマニタの起動処理の手順を説明するフローチャートである。

【図4】ログマネージャの問い合わせに対するステータスマニタの応答処理の手順を説明するフローチャートである。

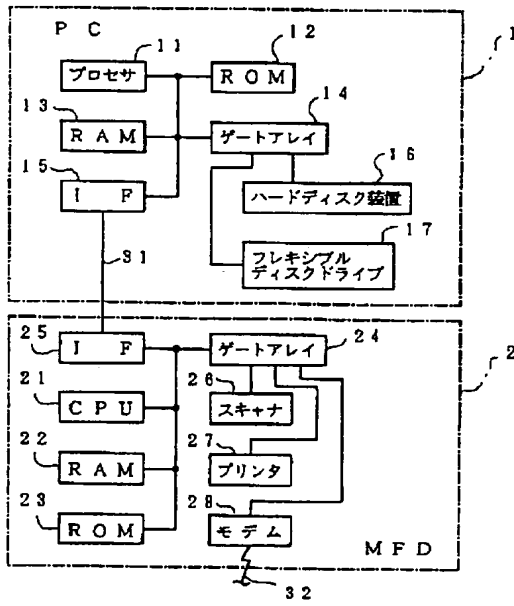
【符号の説明】

- 1 パーソナルコンピュータ
- 2 MFD
- 11 プロセサ
- 16 ハードディスク装置
- 17 フレキシブルディスクドライブ
- 21 CPU
- 26 スキャナ
- 27 プリント
- 28 モデム

【図4】



【図1】



【図2】

